

# リハビリテーション科学部 総合型選抜

総合型選抜 課題レポート

## 課題レポート問題

---

問題 次の文章を読み、以下の設問（問1、問2）に答えなさい。

「試験って、どんな問題が出るの？」

と息子に聞いてみると、彼は答えた。

「めっちゃ簡単。期末試験の最初の問題が『エンパシーとは何か』だった。で、次が『子どもの権利を三つ挙げよ』っていうやつ。全部そんな感じで楽勝だったから、余裕で満点とれたもん」

得意そうに言っている息子の脇<sup>わき</sup>で、配偶者が言った。

「ええっ。いきなり『エンパシーとは何か』とか言われても俺はわからねえぞ。それ、めっちゃディープっていうか、難しくね？で、お前、何て答えを書いたんだ？」

「自分で誰かの靴を履いてみること、って書いた」

自分で誰かの靴を履いてみること、というのは英語の定型表現であり、他人の立場に立ってみるという意味だ。日本語にすれば、**empathy** は「共感」、「感情移入」または「自己移入」と訳されている言葉だが、確かに、誰かの靴を履いてみるというのはすこぶる的確な表現だ。

(中略)

「エンパシーって、すごくタイムリーで、いい質問だね。いま、英国に住んでいる人たちにとって、いや世界中の人たちにとって、それは切実に大切な問題になってきていると思うから」

「うん。シティズンシップ・エデュケーションの先生もそう言った」

と、ちょっと誇らしげに顎<sup>あご</sup>をあげてから息子は続けた。

「EU 離脱や、テロリズムの問題や、世界中で起きているいろんな混乱を僕らが乗り越えていくには、自分とは違う立場の人々や、自分と違う意見を持つ人々の気持ちを想像して試みるのが大事なんだって。つまり、他人の靴を履いてみること。これからは『エンパシーの時代』、って先生がホワイトボードにでっかく書いたから、これは試験に出るなってピンと来た」

エンパシーと混同されがちな言葉にシンパシーがある。

両者の違いは子どもや英語学習中の外国人が重点的に教わるポイントだが、オックスフォード英英辞典のサイト ([oxfordlearnersdictionaries.com](http://oxfordlearnersdictionaries.com)) によれば、シンパシー (**sympathy**) は「1. 誰かをかわいそうだと思う感情、誰かの問題を理解して気にかけていることを示すこと」「2. ある考え、理念、組織などへの支持や同意を示す行為」「3. 同じような意見や関心を持っている人々の間の友情や理解」と書かれている。一方、エンパシー (**empathy**) は、「他人の感情や経験などを理解する能力」とシンプルに書かれ

ている。つまり、シンパシーのほうは「感情や行為や理解」なのだが、エンパシーのほうは「能力」なのである。前者はふつうに同情したり、共感したりすることのようだが、後者はどうもそうではなさそうである。

ブレイディみかこ「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」(新潮社, 2019年)  
より一部抜粋

**問1** エンパシーを持つ、あるいは、持つことにつながる経験とはどのようなものか、あなたの経験をふまえて、具体的に600字以内で説明しなさい。エンパシーが未熟だったために失敗した経験を挙げても構いません。

**問2** あなたの志望する学科のリハビリテーション専門職においてエンパシーがどのように必要とされるか、あなたの考えを600字以内で述べなさい。